**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：神様の存在を探し求める、一人の旅人**

**お名前：谷越昌子**

(下記より本文をご記入ください)

　栄光在天。

　神様、天の父母様、真の父母様は、真の愛と知恵と勇気を、統一原理と真の父母様のみ言を与えてくださいました。感謝申し上げます。

　現在の日本の歴史が、明治維新（1868年10月23日）からと見ると、韓半島の歴史は1910年の日韓併合から始まったと見ることができます。韓国という国はまだ無いため国という意識が無く、個人の感情・家族の意識・地域の習慣性などで成り立った社会であったため、神の国・理想の国を求めてもまだ遠い世界だったのではないかと思います。

　日本が1945年に世界大戦に負け、日韓関係も大きく変わり日本の国も変わってきました。国際連合ができて朝鮮半島では、まだ国という意識が国民に芽生えていなかったのではないでしょうか。

　38度線を境に、ソ連国中心に北と、米国中心の南に、それぞれに支配下に入り、それから５年後、”韓半島統一、国家を建てる”と、共産思想を掲げて朝鮮動乱が起こりました。

　米国を中心に連合国が対戦し占領されていた朝鮮半島を押し戻し、調停により38度線で休戦体制になり今日の朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国の国家が立てられました。

　このことを明確にすることによって、私の平和の統一が整理されます。　感情論ばかりの国家形成ではなくして歴史を見据えていくことによって原理講論で整理されました。　　　原理は、私の存在価値をく知る術を与えてくれています。その一つに相手を強く疑う気持ち猜疑心に囚われた心が解放されました。

　今読んでいる「ギリシア人の物語」というタイトルの本ですが、あることをきっかけに長編小説を読もうとして出会った本なのです。

　紀元前400年代の都市国家（ポリス）に、スパルタ都市国家の話を作者が書いている箇所に、この国は、王家の血統で王様が即位され戦争ともなれば先陣をきって訓練された兵を率いて伴に戦わなければばらないそれを監視するスパルタの5人の法の番人がいるのですが、猜疑心の塊と表現しています。　心が狭く、嫉妬心を持ち王様であろうと英雄となり他の国と親しくなれば容赦なく裁く。この箇所を読んで、怖いと感じ奉献書を書きました。「私は猜疑心があります。それがどれ程に、悲しく恐ろしいことです。」と、でも、私の猜疑心を無くして下さいとは、書きませんでした。奉納した後自分は奉献書を書いたのは覚えているけれど何を書いたのか何日か思い出せませんでした。その間心が軽く幸せ感に満たされています。奇跡が、起こりました。

　現在世界で起きている国と国との戦争、戦争という名を借りてお互いの主張、やられたならばやり返す自己主張する思春期の中学生みたいに、人類の歴史の中で繰り返し繰り返し。現代社会の科学の発展も、戦争の道具として利用されているのではないでしょうか。、

　一つ一つ学ぶことから私たちは成長することを願い、一つの壁があり乗り越えて行くならばまた次の壁に突き当たる、それらの繰り返しなのに生かされている私は何故か愉しい、幸福だと感じます。そこには、真の父母様の愛があるから。

　　「神の国と神の義とを求めなさい。」が絶対信仰の極意であり、「自分を愛するように隣人を愛しなさい。」が絶対愛の極意であり、そして絶対服従の極意は全き謙虚な者の教えである「山上の垂訓」のみ言を与えてくれました。

　しかし今の世界・社会・政治・経済等、宗教も然り、一色にべた塗りつぶされるような薄っぺらいみかたをしてしまうわたしです。

　お父様が、「日本が悪い、日本が問題だ！」。人類の堕落は、「エバが、問題だ！」と、言われました。

### 　日本女性36万名の修練会で、ある質問をさてれたとき、つかさず手を挙げると、お父様が、指名してくださり、答えた時、お父様に、伝わらなかったのでしょう優しく「ん！。」もう一度。言ってごらん。と、言われたような気がして、お父様の目を見て堂々と。「私が、問題です。」と。答えた時、”お父様貴方はメシアです。”完全屈服いたしました。

この言葉は、私が真の父母様に出会う前に神様と交わした大切な、契約の言葉です。契約とは、

神様の実体を探し出して出会うこと、そして出会って行くことを信じて生きていくことなのです。

「私が、問題です。」と、言った後、お父様は、アボジロードを後ろの方へと、行かれ、私は、涙が止まらず、お父様に心情が近くなり心情が開かれました。

　1960年からの教会の歴史は、お母様をとご成婚され祝福を受けられた時から始まった、といっても過言ではないと、思います。二年前に受けた中村講師の原理講義を受けた時から、お父様がお母様を愛するために、サタンと闘いお母様を守り導いてお母様を愛することに責任を持って、神様を抱きかかえて摂理を歩んでこられたのではないでしょうか。そのように、確信を持ち、お母様のお姿を拝見すると、そこにはお母様を愛するお父様がおられます。

　いま私が生かされているのは、この講義に出逢ったからだと思います。

　善と悪、陰と陽、右と左等、分けて考えて他方をサタンと考えて否定排除しようとする前に、お互いを理解する気持ちを大切にしたいし、私には何ができるのでしょうか、と自分に問いかけて出来ることをやっていこうと思います。私は、まだ神様の存在を探し求める、一人の旅人です。

2024年6月14日